

3 1 . シイタケ栽培試験

(2) 菌床栽培試験 (その2)

桃澤邦夫

〔目的〕

近年シイタケの生産において、菌床栽培が行われ生産量も増大しつつある。そこで栽培試験を通じて生産技術の向上に寄与する。

その一環として、収穫を終了した菌床に栄養分を水溶液にして補給し、いわば草木を栽培する際の追肥と同様にした場合、収量への影響を探る。

〔方法〕

試験の概要は表-1に示したが、供試した菌床は前記の菌床栽培試験(その1)の①試験で10回の浸水操作を行っている1.2kgタイプのもの24個である。今回試験の実施に当たり、菌床表面にカビがみられるものもあったので、全部に70%エタノールを散布した。

処理は、前記試験の最終浸水操作日から19日後(開封から199日目)に通算11回目の操作の際にショ糖3%溶液に24時間浸した。この後、27日後(開封から227日目)及び69日後(開封から269日目)の2回にわたって市販の粉末の化学肥料(N:P:K=6.5:6.0:19.0)の1,000倍溶液に24時間浸した。処理した菌床は15℃-90%の蛍光灯照明下に置いた。

発生した子実体については、前記試験と同様に大きさ(LL~SSの5段階)、重量(生重乾重)、色見本シートを使用した傘の色彩の照合(対象生重3g以上)、その他必要事項を調査した。

〔結果〕

子実体の発生量は浸水操作後の子実体の発生量を各回毎に集計し、1菌床当たりの平均乾重として図-1にまとめた。図-1において、開封から10回目の浸水操作までは前記試験の時の発生量であるが、開封直後が最も多く、4回目以降では低い状態で推移してきていた。

本試験の該当範囲の発生量は各回とも、前試験で最低の発生量であった9回目と同程度の発生量しかなかった。このため特に差の検定は行っていないが、今回実施した試験の菌床の状態、すなわち一応の発生を終わり「疲れた」状態で、ショ糖3%あるいは使用した化学肥料の1,000倍溶液での養分補給では、子実体の発生促進に効果はみられなかった。

また、図-2に表示した菌床重量の変化についても、前記(その1)の①試験と異なった傾向はみられなかった。

